

## 高齢者の栄養障害に義歯装着がもたらす効果と高齢義歯装着者への 摂食・栄養指導のガイドラインに関するプロジェクト研究

村田比呂司 (長崎大学)

### Project Study of Effect of Denture Wearing on the Nutrient Intake and Guidelines for Feeding and Nutrition Guidance to Elderly Denture Wearers

Hiroshi Murata, DDS, PhD

#### 研究結果概要

高齢者の低栄養状態は認知症や転倒等を導き、寝たきりの原因になる可能性もある。摂食による栄養摂取は義歯の使用状況に密接に関係していると考えられる。さらに義歯の使用状況は口腔のみならず、患者の身体機能、精神機能にも影響すると推察される。本研究では、義歯の装着・使用が高齢者の栄養摂取に及ぼす影響を明らかにする目的で、高齢者の健康状態、身体・精神機能、栄養状態、生活活動状態と義歯の装着・使用状況との関係を多施設で調査した。まず適切な指標を選択するため、1983年1月～2013年9月までの医学中央雑誌に掲載された和論文と1982年1月～2013年9月までのMEDLINEに掲載された英文論文について検索した。指標の決定後、日本補綴歯科学会会員に対して研究グループの公募を行った。歯科項目の診査として、残存歯の有無および数、咬合支持 (Eichner の分類)、欠損状態 (Kennedy の分類)、義歯使用の有無および食品摂取状態による咀嚼スコアとグルコース溶出量による咀嚼能力の評価を行った。さらに OHIP-49J, 36-Item Short Form Health Survey からの Physical Component Score と Mental Component Score, Profile of Mood States, Mini Nutritional Assessment, Body Mass Index, Barthel Index による評価を行った。統計処理には Kruskal-Wallis 検定および回帰分析を用いた。各研究協力施設からの被験者の合計は 378 名 (平均年齢 73.9±6.6 歳)

で、Eichner の分類の A 群, B 群, C 群の被験者数は、それぞれ 33 名, 157 名, 188 名であった。調査の結果、以下の結論を得た。1) 咬合支持の違いは、咀嚼能力に有意な影響を与えた。また、統計学的有意差は認められなかったが、咬合支持が多くなるほど、口腔関連 QOL, 身体的・精神的健康状態、栄養状態は高くなる傾向にあった。2) 咀嚼能力が高くなるほど、口腔関連の QOL, 身体的・精神的健康状態、栄養状態が良好になる傾向が認められた。以上のことより、さらなるデータの集積は必要であるが、本研究で得られた知見は、高齢義歯装着者への摂食・栄養指導のガイドラインの策定に寄与するものと考えられる。

研究代表者：古谷野 潔 (九州大学)

分担研究者：村田比呂司 (長崎大学), 志賀 博 (日本歯科大学), 大久保力廣 (鶴見大学), 渋谷友美 (大阪歯科大学), 近藤尚知 (岩手医科大学), 櫻井 薫 (東京歯科大学), 田中順子 (大阪歯科大学), 松香芳三 (徳島大学), 水口俊介 (東京医科歯科大学), 鱒見進一 (九州歯科大学), 大川周治 (明海大学), 西 恭宏 (鹿児島大学), 越野 寿 (北海道医療大学), 佐々木啓一 (東北大学), 赤川安正 (奥羽大学), 川良美佐雄 (日本大学), 菊谷 武 (日本歯科大学), 吉田光由 (広島市立リハビリテーション病院)

## 参考資料

志賀 博, 大井 孝, 村田比呂司, 田上直美. 歯科補綴領域に求められる大規模臨床研究を考える—大規模臨床研究案—有床義歯補綴領域—. 日補綴会誌 2012;4 (121 回特別号): 61-62.

著者連絡先: 村田比呂司

〒 852-8588 長崎県長崎市坂本 1-7-1  
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学分野  
Tel: 095-819-7690  
Fax: 095-819-7694  
E-mail: hmurata@nagasaki-u.ac.jp

## Project Study of Effect of Denture Wearing on the Nutrient Intake and Guidelines for Feeding and Nutrition Guidance to Elderly Denture Wearers

Hiroshi Murata<sup>a</sup>, Hiroshi Shiga<sup>b</sup>, Chikahiro Ohkubo<sup>c</sup>, Tomomi Shibuya<sup>d</sup>, Hisatomo Kondo<sup>e</sup>, Kaoru Sakurai<sup>f</sup>, Junko Tanaka<sup>g</sup>, Yoshizo Matsuka<sup>h</sup>, Shunsuke Minakuchi<sup>i</sup>, Shin-ichi Masumi<sup>j</sup>, Shuji Ohkawa<sup>k</sup>, Yasuhiro Nishi<sup>l</sup>, Hisashi Koshino<sup>m</sup>, Keiichi Sasaki<sup>n</sup>, Yasumasa Akagawa<sup>o</sup>, Misao Kawara<sup>p</sup>, Takeshi Kikutani<sup>q</sup>, Mitsuyoshi Yoshida<sup>r</sup> and Kiyoshi Koyano<sup>s</sup>

<sup>a</sup>Nagasaki University, <sup>b</sup>The Nippon Dental University, <sup>c</sup>Tsurumi University, <sup>d</sup>Osaka Dental University, <sup>e</sup>Iwate Medical University, <sup>f</sup>Tokyo Dental College, <sup>g</sup>Osaka Dental University, <sup>h</sup>The University of Tokushima, <sup>i</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>j</sup>Kyushu Dental University, <sup>k</sup>Meikai University, <sup>l</sup>Kagoshima University, <sup>m</sup>Health Sciences University of Hokkaido, <sup>n</sup>Tohoku University, <sup>o</sup>Ohu University, <sup>p</sup>Nihon University, <sup>q</sup>The Nippon Dental University, <sup>r</sup>Hiroshima City Rehabilitation Hospital, <sup>s</sup>Kyushu University